Osaka University Knowledge Archive

Title	アンデルセンとノルウェー : 手紙から垣間見る出会いと幸せな結末
Author(s)	福井, 信子
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2019, 23, p. 195-208
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71782
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

アンデルセンとノルウェー
手紙から垣間見る出会いと幸せな結末

福井 信子

1. はじめに

H. C. Andersen と題された 1954 年発行，90 頁ほどの小冊子がある．出版は Gyldendal 社，発行者は「ノルウェー学生協会文化委員会」（Det norske Studentersamfunds Kulturudvalg）となっており，編者による前書きには，「私たちノルウェー人がデンマークの偉大な詩人に対して抱いている感謝の気持ちの一端が，このささやかな出版物により表明されることを願います」との言葉が見られる．500 部印刷されたというこの冊子がどのようにして生まれたのか，詳しい経緯はわからないが，当時のノルウェーの若者のアンデルセンへの熱い思いが伝わってくる．

冊子は 5 名の寄稿から成っており，その中にはデンマークのトプセー＝イェンセン[1],ビレスコウ・ヤンセン[2]，ノルウェーのフランシス・ブル[3]といった 3 人の著名な文学史家の名が見える．どれも一般向けに啓発的に書かれたものであるが，なかでもフランシス・ブルの「アンデルセンとノルウェー人」（H. C. Andersen og nordmennene）は，発行の趣旨から考えてもこの冊子の中核を成す文章であろうと想像される．アンデルセンとノルウェーの関わりが簡潔にまとめられており，出会いがあり幸せな結末を迎えたという，まるで「アンデルセンとノルウェー」という 1 編の童話がここにあるかのようである．

アンデルセンに対して，ノルウェー側で主要な役割を演じたのはビョルンスチャーネ・ビョルンソン[4]であり，1805 年生まれのアンデルセンから見れば 27 歳年下の，後にノルウェーを代表する文豪となる人物である．そのほかに，女性作家カミーラ・コレット[5]と言葉を交わす場面もあれば，『ペール・ギュント』を発表して間もないイプセン[6]との短い接触もあるなど，ノルウェー文学の華やかな名前がここかしこに登場する．

粗筋は次のようにまとめられよう．アンデルセンはノルウェー人を荒々しく激

---

[1] トプセー＝イェンセン Helge Gottlieb Topsøe-Jensen（1896-1976）デンマークのアンデルセン研究者.
[2] ビレスコウ・ヤンセン Frederik Julius Billeskov Jansen（1907-2002）デンマークの文学史家.
[3] フランシス・ブル Francis Bull（1887-1974）ノルウェーの文学史家.
[4] ビョルンスチャーネ・ビョルンソン Bjørnstjerne Bjørnson（1832-1910）ノルウェーの作家.
[5] カミーラ・コレット Camilla Collett（1813-1895）ノルウェーの女性作家.
[6] イプセン Henrik Ibsen（1828-1906）ノルウェーの作家.

しい国民だと思い込み，あまり好きになれず敬遠し恐れてもいたが，ビョルンソンとの出会いを通じて心が和んでゆく．熱心な誘いに負けてついに思い切ってノルウェーを訪問すると，そこで大歓迎をうけ，アンデルセンは深い感動に包まれる．―ビョルンソンとの出会いが 1861 年, ノルウェー訪問は 1871 年, 1872 年の暮に病床につき 1875 年に世を去ったアンデルセンにとって，晩年に幸せの彩りを添えたとも言えるのがこのノルウェーとの関わりである．

本稿では，アンデルセンとノルウェーの関係を垣間見ることのできる印象的な手紙を幾つか訳出することにする．①知り合ってから約半年後にアンデルセンがビョルンソンに送った手紙，②カミーラ・コレットがアンデルセンに宛てて書いたものの送られなかった手紙，③ノルウェー訪問が実現しつつあるときのビョルンソンからアンデルセンへの手紙 2 通，④ノルウェーでの歓迎会の様子を伝えるアンデルセンからデンマークの友人への手紙，以上の 5 通を紹介したいと思う．

2. アンデルセンからビョルンソンへ

ビョルンソンがデンマーク人と交わした手紙の数々は，ノルウェーとデンマークの協力によりまず後半生（1875-1910）からのものが 1953 年に出版された．その約 20 年後に，今度はビョルンソンが 20 代から 40 代前半までの前半生（1854-1874）の手紙が，*Bjørnstjerne Bjørnsons brevveksling med danske 1854-1874* として 3 巻本で出版された．3 人の編者により[7]，1970 年から 1974 年にかけて刊行されたが，この間に編者の 1 人フランシス・ブルは世を去っている．1854-1863 を範囲とする第 1 巻に次の手紙がある．

1862 年 1 月 30 日　コペンハーゲン[8]

友よ！

ローマでお別れしてからよくあなたのことを考えます．何度も手紙を書こうと思ったのですが，いつも先延ばしになり，私の新しい童話集を送ったのだからそれがあなたの手に届けば，私がどれほどあなたに心を寄せ，詩人として人間としてどれほど高く評価しているかわかってもらえるだろう，そう考えて自分を慰めていました．今ごろきっと私のささやかな本を受け取ってお読みくださっていることでしょう．でもその前に私のほうがあなたからお便りを頂戴しました．有難うございます．私にとって何よりのクリスマスプレゼントでした．クリスマスを過ごしていた田舎のホルスタインボーの荘園でお手紙を受け取りました．そこは

[7] Øyvind Anker, Francis Bull, Torben Nielsen の 3 人である．
[8] *Bjørnestjerne Bjørnsons breveksling med danske 1854-1874. I.* 1970. 181-183.

手入れのよく行き届いた古い屋敷で，裕福なうえに趣味もよく心地よさにあふれています．冬の厳しさを感じることもありません．廊下はどこも暖房がきき絵や生花で飾られています．荘園自体はバルト海のすぐそば，美しい森の中にあります．波が庭園の散歩道まで押し寄せてきます．クリスマスの頃はまだ穏やかな天気で，暖かい陽をうけて木々は芽吹き，庭や野原を歩くと毎日のように花が咲いているのを見つけました．家の中は快適で居心地よく，客として歓迎されていると感じるときにはいつもそんな気持ちになります．私の部屋の一つは城の礼拝堂に接しているので，ソファーにすわっているとオルガンや賛美歌の声が聞こえました．

このクリスマスの華やかなときに，心から待ち望んでいたあなたからの優しいお手紙を受け取ったのですが，読むのに少々苦労しました．紙がとても薄いうえにインクの色も薄かったため，白い紙を下に敷いて文字を浮かび上がらせ，それから虫めがねを使って文字や単語を読み取らねばなりませんでした．いろいろ手を加えたからといって，手紙から何か失われるようなことは絶対にありません．素晴らしいお手紙からは一筋の陽の光が流れ出してくるようでした．あなたや奥様の思い出の中に私が美しく存在していることを知ってうれしくなり，北欧全体が恩恵を受けているあなたの豊かな創作活動のことをうかがってまたうれしく思いました.強い憧れを秘め木の幹のごとく堂々とした詩が生まれることでしょう．ローマでその幾つかをお聞きしたようなみずみずしく深く心に沁み入る歌の数々を切望いたします．あなたが私の童話，例えば「沼の王の娘」にくださった評価をうれしく思うと同時に，お送りした最新の童話「氷姫」をあなたがどうお思いになるか，知りたい気持ちに駆られています．こちらでは「氷姫」が一番いいという評判ですが，私としては「砂丘の物語」「雪の女王」と並べて考えています．私のことを考えるようなときがあり，また手紙を書く時間があれば，これら最近の童話についてあなたがきっと何か言ってくださるのではないかと楽しみにしています．ヨナス・コリン[9]からくれぐれもよろしくとのことです．彼は勤勉で精神的にも日々成長しています．よく二人であなたのことを話題にします．この夏お目にかかれるかどうかは，誰にもわかりません．私はおそらく８月末にスペインに発ちます．バレンシア，コルドバ，セビリヤ，マドリードを訪ね，冬の間はずっとスペインに滞在しようと思っています．

こちらの文学のクリスマスツリーは大変豊かに飾られました．ハウク[10]の抒情詩は間違いなく最良のものに含まれます．みずみずしい若々しさにあふれ，豊穣

---

[9] ヨナス・コリン Jonas Collin d.y.（1840-1905）エズヴァート・コリンの息子で，アンデルセンの大恩人ヨナス・コリンの孫.アンデルセンの旅にしばしば同行する．

[10] ハウク Carsten Hauch（1790-1872）デンマークの作家.

なポエジー，目を見張るほどです．プロウ[11]の詩集，特に夫人に寄せた詩は深みと内面性に秀でており，夫と妻の互いに誠実な心，幸せな家庭生活をうかがわせます．ヘアツ[12]は「治療法」という喜劇を発表し，これはハイベア夫人[13]とヴィーエ[14]の素晴らしい演技により常に満員の盛況です．牧師ブレーデル[15]の親戚でベー[16]というかなり若手の作家が「ヴァルキューレ」という長編詩で登場し，この先大いに期待できそうです．

つまらない手紙ですが，受け取ってください．ローマで短い間ですがご一緒したとき，あなたは私を温かい心で出迎えてくれました．あのときのお優しい心に今一度感謝申し上げます．少なくともあなたは私の本当の姿をはっきりご覧になっていません．私はいらいらと落ち着きがなく陽射しの強さにまいっていて機嫌も悪かったので，あなたにこう思ってもらいたいと自分が望んでいたような私自身ではなかっただろうと思います．奥様，そして素晴らしきローマの私の友人ひとりひとりに挨拶を送りたいと思います．ラウンキレ氏[17]には特によろしくお伝えください．

あなたに心より忠実な友
H.C.アンデルセンより

3. カミーラ・コレットからアンデルセンへ

フランシス・ブルはコレットとアンデルセンの最初の興味深い出会いを紹介している．コレットの晩年のエッセイによると，かつて共通の知人宅で初めて会ったとき，コレットはアンデルセンの童話がノルウェーで広く愛されていると話しかけた．アンデルセンはノルウェー人についての率直な思いを語り始め，自分が苦手とする人物として，コレットの悲恋の相手ヴェルハーヴェン[18]の名を挙げる．さらにもっと我慢ならない人物として詩人ヴェルゲラン[19]の名を出したとき，見るに見かねたその家の女主人が，コレットのことをヴェルゲランの妹さんだと紹介した．コレットは自分も気にしないのでどうぞ気楽にという態度を示したが，恐縮したアンデルセンは平謝りに謝りながら退室したという[20]．

---

[11] プロウ Carl Plough（1813-1894）デンマークの詩人・政治家・編集者．
[12] ヘアツ Henrik Hertz（1798-1870）デンマークの作家．
[13] ハイベア夫人 Johanne Luise Heiberg（1812-1890）旧姓 Pätges．デンマークの女優．
[14] ヴィーエ Johan Wiehe（1830-1877）デンマークの俳優・歌手．
[15] ブレーデル Nicolai Gottlieb Blædel（1816-1879）コペンハーゲンの牧師．
[16] ベー Frederik Bøgh（1836-1882）デンマークの詩人．
[17] ラウンキレ Niels Ravnkilde（1823-1890）デンマークの作曲家・音楽教師．ローマで活動．
[18] ヴェルハーヴェン Johan Sebastian Welhaven（1807-1873）ノルウェーの作家．
[19] ヴェルゲラン Henrik Wergeland（1808-1845）ノルウェーの作家．
[20] Francis Bull. 1954. ”H.C. Andersen og nordmennene” *H.C.Andersen*. 45.

コレットは 1860 年に出たアンデルセンの自伝を読んでから，アンデルセンに次のような手紙を書いたことがある．エッセイ集『無言の者たちの住み処より』（Fra de Stummes Leir 1877）の中に「詩人アンデルセンへの手紙」（Et Brev til Digteren H.C.Andersen）という題で収められているが，結局この手紙はアンデルセンに送られることはなかった．

あなたの本はすべてこの地で喜びを感じながら読んでおります．まるで休暇から帰ってくる子どもを今か今かと待ちかねているように，どの新しい童話集も，どの新しい小説も，出迎えてきました．ますます美しくなってゆき，会う度に大きく大きく成長しているのがわかります．ですがあなたご自身の「生涯の物語」（Livs Eventyr）ほど私たちを喜ばせたものはありません．この書の光を得て改めて童話集を読んだとき，初めて正しく理解できました．コウノトリが七面鳥に囲まれどんな気持ちだったか，鳴いたり卵を産んだりできないからという理由で，アヒルの子が居心地のよいはずのニワトリ小屋でどんな思いに耐えなくてはならなかったか，私たちは今ようやくまざまざと感じたのです．本当です！みにくいアヒルの子が悲しみと微笑みの間で揺れ動きながら何とも熱い期待を抱きつつ，あらゆる困難や不安をくぐり抜けていくのを，これまで誰もともに体験してはいなかったのです．アヒルの子の変身を私たちほど，そう私たちほど大きな歓声で迎えた者はおりません．

ポエジーの葦に縁取られた夢見る鏡に浮かぶ誇り高い白鳥へ，挨拶を送ります．あなたの変身に対し，心からのご挨拶を！童話の作者に対しても！

多くの者がこのように感謝を述べています．ノルウェー人の言うことだからといって，これを軽んじたり見くびったりなさらないでください．あなたが私どもに不信の念をもっていらっしゃることを，私はあなたご自身の口から聞いております．あなたは私どもを「堅い人間たち」で信用できないと思っていらっしゃいます．ですが，本当にそうなのでしょうか．確かに私たちは時々拒否的な態度を取りますし，付き合い方も少しぎくしゃくしているように見えます．時にはあなたが「妖精の丘」で見事に活写なさったように，テーブルの上に足を投げ出したいという欲求にかられたりもします．でもそれはただ恥ずかしさや昔からの習慣でそうしているだけであって，私たち自身がそれをとても気に入っているというわけではありません．さらに私はこのようにも思います．あなたが私たちの間に現れたとき，私たちはあなたをひとりの人間として，デンマークのお国の方々と

同じように理解しようとしました. あなたに対して, もっと仲間らしく接したい, もっともっと心から誠実な知人として接したい，と私たちは思ったのです．灰かき小僧エスペン・アスケラッド[21]は，デンマークではなくここノルウェーで生まれ育ち，ここでこそ世に出やすかったのだと思います．わが国の偉大な人物は多かれ少なかれ皆アスケラッドでした．このことは私たちの発達程度に足りないものがあることを示しているのかもしれません．でもそれには良い面もあります．私たちは教養ある一般大衆を持つには到っていないということです. 故国ノルウェーの一般大衆は美学というものをまったく理解せず，粗野な批判をして拳を振り上げることしか心得ておりません．己の領分だけで判断し攻撃するのです．詩人のような方にはこたえることでしょう―この状況が改められますように！―ここノルウェーでは，詩人に宿と温もりを与えようとする人たちはまだほんのわずかです．詩人は飢え，凍え，冬眠してしまうかもしれませんし，様々な形で死んでしまいかねません. でも, 人目にさらされ手袋をはめた手で石を投げつけられるようなことは, ここではほとんどないでしょう.

それにしても，あなたは不思議な幸運に恵まれてこれまで様々な危険をくぐり抜けていらっしゃいました．そして今あなたは幸運の盾に守られて落ち着き安心して座っていらっしゃいます．あなたの幸運に対して教養人も大衆も最後には敬意を抱くようになったからです．天才の創造力に対し，彼らは身を低くします．なぜなら，幸運とは天才的なものであり，死すべき人間が運命として幸運を所有するというのはまったく稀なことだからです. 今ここで言っている「幸運」とは, 偶然がむやみに乱暴に分け与えるような「運に恵まれること」ではありません．確かにあなたの人生にもその種の運は思いがけない形で作用してきましたけれど. たとえばアンデルセンが国外に一歩足を踏み出すと，幸運は常に待ち構えていていつも各国の詩人，王侯，貴族の腕の中に彼を引き渡そうとしましたし，またその人たちは，行く先々でクリスマスツリーから最良のごほうびを取ってアンデルセンに渡そうとしてくれました．ですから，これまで味わったことのないような歓呼と称賛の道が切り開かれていったわけです…いえ，私たちが考えているのはこういう幸運ではなく，彼自身の中に住んでいるもの，子どもの心，アラジンのような明るい気持ちであり，それがこうしたすべてのことをお話のように彼に体験させたと言いたいのです！プロイセン王が彼に緑や赤の鷲勲章を授与したことに幸運があるのではなく, 彼がそれを「言葉にできないほど喜び」, さらにその「言葉にできないほどの喜び」がどれほどのものであったかを私たちに語るというそ

[21] アスケラッドはノルウェーの昔話に登場するキャラクター．三人兄弟の末っ子であることが多く，能無しと思われ皆から軽んじられているが最後に幸せを得る.

の行為自体に幸運があるのです．これが心を打つのです．なぜなら，他の人たちはこうした幸運にどれほど限りなく喜んだとしても，私たちにその喜びの一部さえ決して伝えてはくれず，自分自身のためだけに自分勝手にとっておくだけだからです．そしてまた，この喜び，このアラジン的な童心は，ほら穴できらきら輝く物や珍しい物を目にしたとたんそれに気をとられてしまい，自分は妬みにあってここに落とされたのだということを忘れてしまいます．これは，いとしい子に対し神々からふんだんに与えられた貴重な贈り物であり，あなたを，私たちにとって心から大切な詩人であるあなたを，前代未聞の順風で後押しし，数々の危険と攻撃を抜け切るようにと手助けしてくれました．それこそが，あなたの生涯の物語を貫き輝いているものです．いろいろな宝や石を下から照らし出す明かりのように，その明かりによって私たちも宝や石を見ることができ，再び子どものように喜んだり感じたり，アンデルセンのように幸運を信じることができるようになるのです．

4. ビョルンソンからアンデルセンへ

アンデルセンは旅先で個性的なノルウェーの芸術家たちに出会っている．例えば画家のJ.C.ダール[22]やトマス・ファーンリー[23]とローマで交流し，アンデルセンの絵を見る目は大いに養われた．1846年にフランスのマルセイユでバイオリニストのオーレ・ブル[24]と出会ったときには，アメリカで自分の童話が広く読まれていると聞かされるが，新大陸へも自在に行き来するブルの強力な個性に圧倒されたのではないかと想像される．そのほかノルウェーの劇場で観客が信じられないような乱暴で子どもじみた振る舞いをした[25]など，いろいろな噂も聞いたりするうちに，いつしかノルウェー人は粗野で乱暴で激しいといったイメージを持つようになった．

それが端的に示されているのが1845年に発表された童話「妖精の丘」である．この中に登場するノルウェーのトロルの若者は，テーブルの上にブーツをはいた足を投げ出したりするので，乱暴で礼儀知らずだと周囲の者をあきれさせる．アンデルセンは自分たちのことをこう思っているのだと，多くのノルウェー人はこの童話を気に留めた．コレット夫人の前述の手紙にも，ビョルンソンの次の2通目の手紙にも，「テーブルに足を乗せるノルウェー人」に対する言及が見られるのは，

---

[22] J.C.ダール Johan Christian Dahl（1788-1857）ノルウェーの風景画家．

[23] トマス・ファーンリー Thomas Fearnley（1802-1842）ノルウェーの風景画家．

[24] オーレ・ブル Ole Bull（1810-1880）ノルウェーのバイオリンの名手．

[25] アンデルセンは1844年9月13日の日記に，クリスチャニアの劇場での騒動を聞いた話として記している．客席で笛を鳴らしていた2人の男をある紳士が止めようとしたが，結局，お互いに脱いだ靴を手に殴り合いになったという．

ノルウェー人の間でよく知られた童話となっていたからであろう．

アンデルセンのそうした思い込みを改めてもらうには実際のノルウェーを見てもらうのが一番いいだろうとビョルンソンをはじめノルウェーの友人たちは考えた．そして繰り返しノルウェー訪問を促し，ようやく実現するのは 1871 年の 8 月，アンデルセンが 66 歳のときである．訪問の細部が話題になり始めた同年 6 月の手紙を 2 通紹介する．アンデルセン訪問を素直に喜んで即座に返信し，自分の活動も率直に伝える溌剌としたビョルンソンの姿が浮かんでくる．

1871 年 6 月 8 日　クリスチャニア[26]

親愛なるアンデルセン，今年こそどうしてもこちらに来ていただかなくてはなりません．私は家におりますし，今年は旅に出る考えはまったくありません．私の動静など新聞にいろいろ書かれていますが，信じてはなりません．ここでも他の大きな町でもあなたを喜んでお迎えするとお約束します．私たちがあなたのことを長い間愛してきたように，必ずやあなたも私たちのことを愛するようになられるでしょう．

どうぞ来てください．もし可能でしたら，わが家に滞在してください．私たちにいつもこんなによくしてくださったあなたにようやく何かすることができるのですから，妻はうれしさに心も舞い上がるでしょう．

もしそれが無理なら，あらゆる点を考慮してわが家よりも快適で馬車なども自由にお使いいただける家からあなたが招待をうけられるようにいたしましょう．その程度のことはあまり力のない私どもでもさせていただきます．わが家は残念ながらあまり広いとは言えないのです．

親愛なる愛すべき友よ，もしあなたが直接私に問い合わせてくださっていたら，もっと早くにこの手紙が届いたはずです．でも私は（ベルゲンに行っていて）留守をしており，二三日前にこちらへ戻ってきたので，あなたが今年ノルウェーにいらっしゃるご計画についてまだ知らないでいました．

私はノルウェー劇場のことでベルゲンに行っていました．結果として役者たちは自分たちの報酬を最後の 1 シリングまで残らず受け取り，そのほかに大道具，衣装，書庫も所有することになり，負債はわずか 500 シリングです．始めたときには無一文だったのに 1 年間でこれだけの成果を挙げました．では芸術面での成果はというと，私をはじめ誰にとっても期待を上回るものでした．それについては本当に奇跡としか思えないような点が幾つかあります．同時期にクリスチャニア劇場の方は 7000 シリングの借金を背負い，破産を免れない状況です．こうし

[26] *Bjørnestjerne Bjørnsons brevekslingmed danske 1854-1874. III.* 1974. 110-111.

たことはおそらくすべてなし崩しになっていく危機的状況を引き起こすでしょうし，その限りにおいてはノルウェー劇場にとってプラスに働きます．私たちの借りた建物はこれ以上使用に耐えないような代物で，ベルゲンで別に建物を探して劇場に改築するためローンを組まなくてはなりませんでした．ずっと大変な日々でした．でも…「勝利の日に，誰が負け戦の数を数えようか」です．

どうぞお元気で，妻と私からご友人方によろしくお伝えください．デンマーク風ノルウェー語で「はい，行きます」とのご返事を，そして訪問の期日を電報でお知らせください．

あなたに心より忠実な

ビョルンスチャーネ・ビョルンソンより

1871年6月20日　フレデリクスター近郊のトシュホウにて[27]

親愛なる，親愛なるアンデルセン，あなたの心温まるお手紙は少し遅れて届きました．受け取るまで私はもうあきらめていたのですよ．歓迎いたしますとも！ホテルにご滞在なさるとお決めになられたとのこと，最善の選択かもしれません．

私への手紙はフレデリクスターのトシュホウに送ってください．私は家族とそこに滞在しています．でもあなたから合図があり次第直ちに私もクリスチャニアへ行きます．

今「十字軍兵士シグール」に取りかかっています．

いいですか，クリスチャニアに安全な場所を期待してはなりません．見渡す限り誰もいないのです．少し遅めの方が，皆休暇から戻っていてよいでしょう（8月の初め）．それまでは子どもたちも留守ですよ！―でも，あなたのよいようになさってください．あなたが出かけてくださりさえすれば，万事うまく運びます．あなたがいらっしゃったら，ノルウェーのトロルたちはテーブルから足をおろし，みんな一斉に立ち上がります！

あなたに心より忠実な

ビョルンスチャーネ・ビョルンソンより

追伸：ルートがわかりませんので何も助言はできませんが，ゆっくり旅をなさるようにとだけ申し上げます．何かのために急ぐことなどまったく必要ありません．私たちは会うときには会うのです．それが二日ほど前後しようとうれしさは何ら変わりありません．駅であなたにお目にかかれるのが何日なのかわかるように，どうぞご旅行中にクリスチャニアへ電報を打ってください．でもその前に手紙をお願いします，そうすれば早めにクリスチャニアにまいりますから！

あなたのBより

---

[27] *Bjørnestjerne Bjørnsons brevekslingmed danske 1854-1874. III.* 1974. 113.

5. アンデルセンからメルキオー氏へ

アンデルセンは 1871 年の 7 月 25 日にコペンハーゲンを出発し，1 か月後の 8 月 25 日にクリスチャニア（現オスロ）を発って帰路についた．ちょうどひと月の旅行である．スウェーデン経由の旅程で，ヘルシンゲーアからヘルシングボリに渡り，イェンシェーピング，ヨーテボリに到着する．数日間ヨーテボリに滞在した後カールスタードへ，国境を越えてノルウェーに入ったアンデルセンは，コングスヴィンゲル経由で首都へと向かい，いよいよ 8 月 5 日にクリスチャニアの駅でビョルンソンに迎えられたのである．ノルウェー滞在中はホテル「ヴィクトリア」に宿泊した[28]．

8 月 18 日には植物園で歓迎の宴が開かれ，ホテルに帰ったアンデルセンはそのときの様子をすぐに手紙でデンマークの知人モーリツ G.メルキオー氏に書き送っている．モーリツとドロテアのメルキオー夫妻[29]は晩年のアンデルセンを親身になって世話をした裕福な商人で，その別荘「ローリヘズ」（Rolighed）にアンデルセンはしばしば滞在している．ノルウェーに向けてもここから出発した．

1871 年 8 月 18 日　クリスチャニアにて[30]

親愛なる祝福をうけし友よ！

今この瞬間私は，植物園での私を称える祝宴から帰宅し，あなたの電報を見つけました．何とあなたらしいお心遣い！何とお優しく誠実でいらっしゃるのでしょう！私の体は疲れ切っておりますが，それはどうあれ私はすぐさま書かなくてはなりません．ビルク（ライケンヴァルト？）だったか名前は覚えていませんが，前首相だったという方が私をホテルまで送ってくれました．「電報が来ている！」と私は大声を出しました．「祝宴に来られなかった詩人のムンク[31]からだと思います．」田舎から出て来られるかもしれないという手紙を彼からもらっていたのです．私は電報を開き，一緒にそれを読みました．「あなたは何と幸福な方でしょう，誠実で心にかけてくれる友人をお持ちなのですね．何という喜びでしょう！」その方はこう言いました．それはまさに私の心からの言葉でもあります．愉しい祝宴でした．多くの方がまだクリスチャニアには戻っていなかったのですが，それでもかなり大きな集まりでした．著名な 24 人が発起人として名を連ねており，ビョルンソンの名前はこの中にありませんでしたが，次のような歌を用意してくれていました．「はるか北の国を私は知っている」（Jeg vet ett land långt upp mot

---

[28] de Mylius (1993; 192).

[29] メルキオー夫妻 Moritz G. Melchior（1816-1884），Dorothea Melchior（1823-1885）.

[30] *Breve fra H.C. Andersen*. 2000. 859-861.

[31] ムンク Andreas Munch（1811-1884）ノルウェーの詩人.

högan nord）のメロデイーで歌うようにという指示でした.

童話の国より　ようこそここへ
無垢な心のあなた　われらの夢
陽と輝き世界にこぎだす
でもあなたを信じ
でもあなたを信じ　抱かれみな泳ぐ
無数の子らの目
じっとかなたを見上げ　そこには大きな鳥の群れ
‖朝日のなか‖
‖白くまばゆい鳥の群れ‖
群れのなかにあなたの姿
子らは喜び　子らは喜び　笑う

ようこそここへ　この明るい夏の日
子らの夢　大地に届き
花咲き　歌い　姿を映し　空を飛ぶ
ひとつの童話
ひとつの童話　われらはるか北の地は
今宵宴であなたを抱き
感謝　歓呼　ささやきが口から口へ
‖天使の声‖
‖無垢な心の喜び‖
一瞬であなたはそこに運ばれ
われらの夢すべて　われらの夢すべても　そこへ飛び抜けた

ようこそここへ　われらは若き国民
大いなる夢の時代に立つ
童話のように　それこそ偉大なこと
夢が最初に
夢が最初に　主の呼び声を聞く
われらはあなたを信じ　あなたは子らの憧れを読み解く
あなたは　大いなるものより遣わされた　北欧の民への使者
‖あなたのファンタジーが‖
‖その道筋を平らにした‖

あなたが脇に置いた小さなもの，それを解き放ち
われらは歩む　われらは歩む　大きなものに向かって

4時半に組織委員会の人たちが私を迎えに来てくれました．植物園までの道々，大勢の人たちが見えました．園内の教授宿舎は花で美しく飾られ，庭園には支度のできた食卓が並び，私の胸像まで置かれていました．伝説の語り手として知られるモー[32]が祝辞を述べました．私はおどおどしながら魅了されて立ちつくしていました．祝辞の中で，私がヨーロッパのすべての国を訪れたのに，ノルウェーだけはまだだったとやんわり言及されるや，それに合わせて歓声があがり，その優しく温かい心がうれしく，私は胸を突かれ涙があふれました．それから私が話す番になったのですが，いったい何を言ったことやら．自分のことを話すと，多くの人の目に涙が浮かぶのが見えました．人々に感謝され，ビョルンソンは私からこれほど素晴らしい話は今まで聞いたことがないと言いました．それから促されて童話を2つ朗読しました．「雪だるま」と「確かにそのとおり」です．とても明瞭で見事な朗読だったのですべての人が理解できたと言ってもらえました．デンマークとすべてのデンマーク人に誰もが挨拶を送ってくれましたので，私はそれを持ち帰って伝えなくてはと思います．「デンマークの地」(Dannevang) [33]と「愛らしき国あり」(Der er et yndigt Land) [34]が演奏されました．女性たちは私に花束を投げました．和やかな雰囲気でした！朝の「モルゲンブラーデ」紙（Morgenbladet）（これはビョルンソンと敵対していると言われている新聞です）には私のために美しい詩が載っていましたので，有り難いことに私は党派争いに巻き込まれていないのだとわかりました．誰もが私を心優しく迎えてくれます．さらに，私は若い人たちから新入生歓迎会に招かれもしたのです．今これから大学生になる若者たちです．思いやりの感じられるうれしい心遣いです．でも行くかどうかはまだわかりません．私は一時間だけという条件もつけました．なんといっても「年寄り」ですし，それにその日はビョルンソンがミョーサ湖[35]に案内してくれるかもしれないので，そうなればもちろん行けません．

――ここには温かい心があり，美しい自然があります．別れのときに私が「またまいります，おそらく来年に」と言うと，皆が口をそろえて「大歓迎！」と返してくれました．何と不思議なことでしょう．主なる神さまは私にこれほど多くの喜び，祝福，幸運を恵んでくださるのです，何千という人が悲哀と喪失を

[32] モー Jørgen Moe（1813-1882）ノルウェーの民俗学者・聖職者．アスビョルンセンとともにノルウェーの昔話を収集出版した．
[33] B.S.Ingemann の詩で，曲は C.E.F.Weyse による．
[34] Adam Oehlenschläger の詩で，曲は Hans Ernst Krøyer による．
[35] ミョーサ湖 Mjøsa ノルウェー最大の湖．

抱えて歩んでいるというときに．確かに私は幸運児なのでしょう！
これで紙が尽きました．神さまがあなたに喜びを与え祝福なさいますように！

あなたに感謝の心を捧げ忠実な
H.C.アンデルセンより

6. おわりに

結局アンデルセンは 8 月 22 日の大学新入生歓迎会に出席できた．懇請されて朗読を披露し，喝采を受けたりもした．自分は年寄りだし，他の用事があるかもしれないし，と口では言っていたが，若い世代のノルウェー人が熱心に自分に心を寄せてくれるのをうれしく感じていたことだろう．それから八十数年後，ノルウェーの大学生たちは今一度アンデルセンに自分たちの熱い感謝の思いをどうしても伝えたくなった．学生代表が一所懸命著名な学者に寄稿を依頼して回り，冊子にまとめた．ささやかな出版物であろうと，学生たちの思いは大いに満たされたにちがいない．表紙には「マッチ売りの少女」が生まれるきっかけとなったロンビュー[36]の絵が控えめにあしらわれているが，こんなところにも，アンデルセン童話に対するノルウェーの学生の率直で素直な気持ちが表れているように思われる．

アンデルセンはノルウェーで，目を見開きありのままの自分を見ようとしてくれる人たちに接した．しかもその人たちは自分の最良の部分を懸命に見ようと努力してくれる．アンデルセンはノルウェー人の自分を見る目の一途さ，率直さ，その素直な温かい心を目の当たりにして，深く感動し胸を震わせたことであろう．

[36] ロンビュー Johan Thomas Lundbye（1818-1848）デンマークの風景画家．

H.C. Andersen and Norway

A happy story seen through some letters

Nobuko Fukui

Summary

H.C.Andersen visited Norway for the first time in August in 1871, just four years before his death. Until then he had a certain image of Norwegians and was afraid of their somewhat hard and strong attitude and their straight way of thinking. But that image began to change through the friendship with 27 years younger Bjørnstjerne Bjørnson. He found warm-hearted sincere people who were willing to try to understand him just as he was, including a woman writer Camilla Collett. During his stay in Norway he was admired by young and old, who all loved his fairy tales. He was moved to tears by their straight honest words and their loving hospitality.

参考文献

Det norske Studentersamfunds Kulturudvalg. 1954. *H.C.Andersen*. Oslo og København: Gyldendalsk Boghandel, Nordisk Forlag.

Det danske Sprog- og Litteraturselskab og Det norske Språk- og Litteraturselskap. 1970-1974. *Bjørnstjerne Bjørnsons brevveksling med danske 1854-1874 I-III*. København og Oslo: Gyldendalske Boghandel, Nordisk Forlag, Gyldendal, Norsk Forlag.

Collett, Camilla. 1877. *Fra de Stummes Leir.* http://www.bokselskap.no/forfattere/collett/

de Mylius, Johan. 1993. *H.C.Andersen – Liv og Værk*. København: Aschehoug.

Bille, C.St.A. og Nicolaj Bøgh (red.). 2000. *Breve fra H.C.Andersen*. København: Aschehoug.

Det danske Sprog- og Litteraturselskab. 1971-1976. *H.C.Andersens dagbøger I-XII.* København: G.E.C.Gads Forlag.